

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	多文化保育研究				
担当者氏名	芳井 宏暢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門応用-1 国際社会に貢献できる人材育成 ○ 専門応用-2 豊かな人間性の醸成 ○ 専門応用-3 コミュニケーション能力の向上 ○ 専門応用-4 発達の深い理解 ○ 専門応用-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

-多文化・国際化に対応できる保育者・教師の養成-
 グローバル化や多文化共生を理解した教員が一層必要とされている。例えば、日常生活においても、コンビニや飲食店など身近な場所で、日本語話者でない人が、働いているのを目にする。保育や教育の現場でも、外国籍の子どもたちが増えている。
 この講義では、様々な文化を持っている子どもたちと一緒に保育・教育するために、必要な知識や技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

世界各国の保育や教育制度、文化、食生活や子育て支援などを学びながら、日本の保育（教育）のあり方を再検討し、多文化共生社会における保育者・教育者の役割を見出しに行く。
 多文化保育は、人種や民族の違いに留まらず、障がいや宗教、LGBTQ（性的少数者）などの子どもの多様性について取り扱うことがあり、多様性が尊重される社会の在り方についてともに考えていく場をしたい。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度及び取り組み）40%
 課題（グループ発表など）20%
 テスト40%

これらをベースにし総合的に評価する。

《テキスト》

授業に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

①多文化共生保育の挑戦 - 外国籍保育士の役割と実践 - 佐々木 由美子（著） 明石書店 ②外国人と共生するニッポンへ 後藤裕幸（著） カナリアコミュニケーションズ ③ニュージーランドの保育園で働いてみた：子ども主体・多文化共生・保育者のウェルビーイング体験記 谷島 直樹（著） ひとなる書房 ※その他、授業時に必要に応じ紹介する。

《授業時間外学習》

予習・・・多文化保育（教育）に対しての基礎理論を習得しなければならない。日本と外国との文化や考え方、食べ物など相違点が多数存在する。図書館やインターネットなどで文献や情報の収集し、資料をまとめる。
 復習・・・資料をまとめ、それらを検討して考察していく。

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	多文化保育（教育）とは？多文化と異文化、グローバル化とは？
2	在日外国人を取り巻く現状について	在住外国人の増加における日本社会のさまざまな新しい変化について考察・討議する。
3	日本の保育と海外の保育の大きな違いについて	日本や諸外国の現状を踏まえながら、外国につながる子どもや保護者への支援の実際を学ぶ。
4	多文化共生社会に向けた考察	保育・教育現場で、文化や食べ物などの相違点についての文献を収集し、実際に必要な知識を学習する。それらに関する知識や背景に考察・討議する。
5	異文化接触時の子どもの発達Ⅰ	外国人が就学する課題として、言葉や習慣の違いが多々ある。それらの課題を保育や教育現場での対応方法を多くの事例から学ぶ。
6	異文化接触時の子どもの発達Ⅱ	SDGs×保育～海外の保育事情や多文化共生の取り組みについて学びを深める～
7	諸外国の保育制度と子育て支援の現状Ⅰ	アジア諸国、欧米諸国などの保育（教育）事情について学ぶ。
8	諸外国の保育制度と子育て支援の現状Ⅱ	北欧諸国や特色のある国の保育（教育）事情について学ぶ。
9	インクルーシブとSDGsについて	インクルーシブ、SDGsの状況を学ぶ。
10	日本における多文化保育の実践例Ⅰ	保育所保育指針から見る「多文化共生保育」や幼稚園教育要領から見る「多文化共生保育」、グローバル化する保育所について学ぶ。
11	日本における多文化保育（教育）の実践例Ⅱ	小学校などで、多文化を生かした教育の実践を考察・討議する。
12	多文化保育（教育）における課題	異文化に対する寛容な態度を育む支援について学ぶ。
13	教材づくりとディスカッション	外国の子どもたちを中心として、周りの子どもたちもグローバルな視点を保つことが出来るような教材を各自考え、発表する。
14	多文化保育（教育）の環境構成	多文化保育（教育）の教材研究や絵本、事例などを参考し、環境構成について学ぶ。
15	今後の多文化保育推進に向けた展望	まとめ